



## 2020年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年8月14日

上場会社名 日本出版貿易株式会社  
 コード番号 8072 URL <http://www.jptco.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 事業管理部総務部長  
 四半期報告書提出予定日 2019年8月14日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

(氏名) 綾森 豊彦  
 (氏名) 木村 樹

TEL 03-3292-3751

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年3月期第1四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第1四半期	1,975	12.2	6	—	7	—	△0	—
2019年3月期第1四半期	1,761	8.8	△12	—	△1	—	△6	—

(注)包括利益 2020年3月期第1四半期 2百万円 (—%) 2019年3月期第1四半期 △21百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円銭	円銭
2020年3月期第1四半期	△0.89	—
2019年3月期第1四半期	△8.94	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円銭
2020年3月期第1四半期	5,232	1,494	28.6	2,142.58
2019年3月期	6,252	1,512	24.2	2,168.63

(参考)自己資本 2020年3月期第1四半期 1,494百万円 2019年3月期 1,512百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
2019年3月期	—	—	—	30.00	30.00
2020年3月期	—	—	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	—	—	30.00	30.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
第2四半期(累計)	3,750	0.3	△10	—	△10	—	△10	—	△14.34
通期	8,800	0.4	130	28.7	120	3.4	75	11.9	107.54

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料8ページ「(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

2020年3月期1Q	700,000 株	2019年3月期	700,000 株
2020年3月期1Q	2,603 株	2019年3月期	2,603 株
2020年3月期1Q	697,397 株	2019年3月期1Q	697,414 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。  
業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	7
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、輸出や生産の弱さが続いているものの、雇用情勢は着実に改善、個人消費も持ち直し、企業収益も高い水準で底堅く推移するなど、緩やかな回復基調が続いております。海外経済においても緩やかな回復基調にあるものの、米中を中心とする通商問題の動向、中国経済の先行き、政策に関する不確実性の影響など、留意が必要な事象は数多くあると思われま

す。当社グループにおける出版物・雑貨等の輸出事業は、文具・雑貨類及び語学書の輸出は増加、大学図書館向けマーケットも堅調に推移したものの、CD輸出は大型新譜の発売が少なく不振となったことから減収となりました。また、洋書・メディアの輸入事業は、語学テキストの返品が減少したことに加え、K-POPの大型新譜が相次いで発売され、旧譜の受注も好調に推移したことから増収となりました。

為替につきましては、前年度がドル高、ウォン安の影響で9百万円の為替差益が計上されたのに対し、当年度は6月に急速に円高が進行したことから0.5百万円の為替差損の計上となり、前年対比では営業外損益において利益を押し下げる要因となりました。その結果、当第1四半期連結会計期間の売上高19億7千5百万円（前年同四半期比12.2%増）、営業利益6百万円（前年同四半期の営業損失1千2百万円）、経常利益7百万円（前年同四半期の経常損失1百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は0.6百万円（前年同四半期の親会社株主に帰属する四半期純損失6百万円）と、営業利益、経常利益は確保したものの、わずかに純損失の計上となりました。

事業の種類別セグメントの経営成績は以下のとおりであります。

## (出版物・雑貨輸出事業)

輸出事業は、文具・雑貨類につきましては、各地展示会への出展、参加により新規仕入先の拡大、取引先への提案強化の継続により好調に推移、語学書はきめ細かい対応が評価され売上拡大しております。また、大学図書館向けマーケットにおいても、顧客対応のレベルアップに努めており、堅調に推移したものの、CD輸出は大型新譜の発売が少なく、最近人気のレコードで補てんを図りましたが、及ばず減収となりました。

利益面では、原価率は前年並みでありましたが、減収に比例し売上総利益の額が減少、対して業務効率化を目的としたシステム開発費用が増加し、営業利益の確保に至りませんでした。

その結果、当部門の売上高は3億6千4百万円（前年同四半期比4.7%減）、営業損失は0.2百万円（前年同四半期の営業利益9百万円）となりました。

## (洋書事業)

代理店を務めております学術雑誌の売上減少に歯止めがかからないものの、大手英語テキスト出版社様との戦略的互惠関係の深化を通じて、大学の採用品（教科書）の出荷は堅調に推移、英語塾、英会話学校など新たな販路も拡大を続けており、東南アジア留学生の増加による日本語テキスト類の販売も順調であることに加え、春季における採用品の出荷に対する返品が減少したことから、増収となりました。

利益面では、運賃、アルバイト人件費等の変動費が高騰する中、業務効率化により経費を圧縮しましたが、若干営業損失が増加いたしました。

その結果、当部門の売上高は4億4千8百万円（前年同四半期比4.5%増）、営業損失は1千6百万円（前年同四半期の営業損失1千5百万円）となりました。

## (メディア事業)

主力商材である輸入CDにつきましては、K-POPの大型新譜のリリースが相次いでなされ、売上に大きく貢献いたしました。また、利益率の高いジャズ、ポップス、クラシックを中心とした自社オリジナルシリーズのうち、クラシックは苦戦が続いているものの、その他は下げ止まりの傾向、ネット事業者向けにはK-POPのみならず洋楽の旧譜も幅広く受注があり好調であったことから、増収となりました。

利益面では、K-POPの価格競争の激しさは変わらないものの、利益率の高い商品群の受注が回復したことから原価率は若干改善、営業費用は運賃等の変動費の増加を最小限に止め、営業利益は大幅に増加いたしました。

その結果、当部門の売上高は9億5千4百万円（前年同四半期比25.7%増）、営業利益は3千9百万円（前年同四半期比237.7%増）となりました。

## (不動産賃貸事業)

本社でのテナント事業は、前年度満室稼働となった時期が7月であったことから、未一巡効果により増収となりました。また、原価につきましても前年度発生した一時的な修繕費用が当年度は発生していないため、原価率が大幅に改善し、営業利益も大幅に増加いたしました。

その結果、当部門の売上高は1千9百万円（前年同四半期比13.2%増）、営業利益は1千1百万円（前年同四半期比109.8%増）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ10億2千万円減少し、52億3千2百万円となりました。

これは主に流動資産で前渡金が8千4百万円、商品が4千3百万円、受取手形及び売掛金が9億5千8百万円減少したことが要因です。年間購読雑誌の仕入により前渡金が減少し、大学等への英語教科書の春季販売分の回収により受取手形及び売掛金が減少しております。

当第1四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ10億1百万円減少し、37億3千8百万円となりました。これは主に流動負債で支払手形及び買掛金が7億4千5百万円、前受金が1億1千7百万円減少したことが要因です。上述の大学等への英語教科書の仕入代金支払により支払手形及び買掛金が減少し、年間購読雑誌の売上により前受金が減少したことによるものであります。

当第1四半期連結会計期間末の純資産合計は14億9千4百万円となり前連結会計年度末に比べ1千8百万円減少しております。これは主に配当金2千万円の支払いにより利益剰余金が減少したことが要因です。

以上の結果、自己資本比率は28.6%(前連結会計年度末は24.2%)となり、4.4ポイント増加しております。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期におきましては、ほぼ計画通りに推移しておりますので2019年5月15日発表の第2四半期累計期間および通期の業績予想に変更はありません。

今後、何らかの変化がある場合には適切に開示してまいります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	708,944	775,346
受取手形及び売掛金	2,702,310	1,744,046
商品及び製品	1,403,708	1,360,180
貯蔵品	13	37
前渡金	297,699	213,260
その他	48,894	59,764
貸倒引当金	△1,919	△1,232
流動資産合計	5,159,652	4,151,402
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	112,174	106,515
土地	667,900	667,900
リース資産(純額)	33,636	31,074
その他(純額)	11,450	11,215
有形固定資産合計	825,162	816,705
無形固定資産		
のれん	5,142	4,970
その他	40,447	39,048
無形固定資産合計	45,589	44,018
投資その他の資産		
投資有価証券	123,826	123,671
繰延税金資産	81,115	79,563
その他	23,711	23,554
貸倒引当金	△6,192	△6,190
投資その他の資産合計	222,460	220,598
固定資産合計	1,093,212	1,081,322
資産合計	6,252,864	5,232,724

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,412,930	1,667,118
短期借入金	896,424	893,301
リース債務	12,640	12,196
未払法人税等	37,391	11,096
前受金	425,052	307,884
賞与引当金	25,697	5,505
返品調整引当金	45,430	23,917
その他	223,558	194,000
流動負債合計	4,079,124	3,115,019
固定負債		
長期借入金	240,725	207,422
リース債務	28,915	26,060
退職給付に係る負債	161,174	160,634
繰延税金負債	1,232	—
再評価に係る繰延税金負債	187,998	187,998
その他	41,300	41,361
固定負債合計	661,346	623,477
負債合計	4,740,471	3,738,496
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	430,000	430,000
資本剰余金	195,789	195,789
利益剰余金	483,836	462,295
自己株式	△6,171	△6,171
株主資本合計	1,103,455	1,081,913
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11,359	11,152
土地再評価差額金	425,975	425,975
為替換算調整勘定	△25,656	△22,214
退職給付に係る調整累計額	△2,740	△2,598
その他の包括利益累計額合計	408,938	412,314
純資産合計	1,512,393	1,494,228
負債純資産合計	6,252,864	5,232,724

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
売上高	1,761,282	1,975,544
売上原価	1,445,700	1,634,227
売上総利益	315,581	341,316
返品調整引当金戻入額	32,728	33,831
返品調整引当金繰入額	3,855	12,318
差引売上総利益	344,454	362,829
販売費及び一般管理費	356,675	356,263
営業利益又は営業損失(△)	△12,220	6,566
営業外収益		
受取配当金	1,428	1,714
貸倒引当金戻入額	338	688
為替差益	9,831	—
その他	1,379	849
営業外収益合計	12,979	3,251
営業外費用		
支払利息	1,548	1,648
為替差損	—	532
その他	301	328
営業外費用合計	1,850	2,509
経常利益又は経常損失(△)	△1,091	7,308
特別利益		
固定資産売却益	368	—
特別利益合計	368	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△722	7,308
法人税等	5,515	7,928
四半期純損失(△)	△6,238	△619
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△6,238	△619



(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
四半期純損失(△)	△6,238	△619
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,606	△206
為替換算調整勘定	△19,327	3,441
退職給付に係る調整額	108	141
その他の包括利益合計	△15,612	3,376
四半期包括利益	△21,850	2,756
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△21,850	2,756
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				
	出版物・雑貨輸出事業	洋書事業	メディア事業	不動産賃貸事業	計
売上高					
外部顧客への売上高	382,151	428,693	759,416	17,044	1,587,306
セグメント間の内部売上高又は振替高	125,150	—	—	—	125,150
計	507,302	428,693	759,416	17,044	1,712,456
セグメント利益又は損失(△)	9,158	△15,600	11,719	5,255	10,532

	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 3
売上高				
外部顧客への売上高	173,976	1,761,282	—	1,761,282
セグメント間の内部売上高又は振替高	265	125,416	△125,416	—
計	174,241	1,886,698	△125,416	1,761,282
セグメント利益又は損失(△)	△10,326	206	△12,426	△12,220

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、関係会社の小売を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△12,426千円はセグメント間取引消去6,469千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△18,896千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社(提出会社)の管理部門等に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				
	出版物・雑貨輸 出事業	洋書事業	メディア事業	不動産賃貸事業	計
売上高					
外部顧客への売上高	364,080	448,022	954,942	19,298	1,786,344
セグメント間の内部 売上高又は振替高	115,012	—	—	—	115,012
計	479,092	448,022	954,942	19,298	1,901,356
セグメント利益又は損 失(△)	△232	△16,916	39,581	11,028	33,460

	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 3
売上高				
外部顧客への売上高	189,200	1,975,544	—	1,975,544
セグメント間の内部 売上高又は振替高	67	115,079	△115,079	—
計	189,267	2,090,623	△115,079	1,975,544
セグメント利益又は損 失(△)	△9,380	24,080	△17,513	6,566

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、関係会社の小売を含んでおりま  
す。

2. セグメント利益又は損失の調整額△17,513千円はセグメント間取引消去1,993千円、各報告セグメントに配  
分していない全社費用△19,506千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親  
会社(提出会社)の管理部門等に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。